

学位論文の調査要旨

| | | | |
|---|---|----|-------|
| 専攻名 (又は推薦専攻名) | 地域イノベーション学専攻 | 氏名 | 谷口 耕輔 |
| 学位論文題目 | 酸化ストレス指標を用いた競技選手のコンディション評価に関する研究 | | |
| 調査委員会 | 委員長 小林 一成 委員 三宅 秀人 委員 狩野 幹人 委員 杉田 正明 | | |
| 調査結果の要旨 | | | |
| <p>本論文は、スポーツ現場におけるコンディショニングをより適切に行うため、酸化ストレス度 (Reactive Oxygen Metabolites, d-ROMs)、抗酸化力 (Biological Anti-Oxidant Potential, BAP) および潜在的抗酸化能 (BAP/d-ROMs) を中心とした酸化ストレス指標が、選手のコンディション評価に活用できる可能性について検討したものである。</p> <p>実業団女子長距離走選手を対象とした 2 年間の事例研究では、酸化ストレス指標は疲労度を反映していることが示され、特に BAP を測定することで選手のパフォーマンスやコンディションを評価できる可能性が示唆された。また、高校男子長距離選手を対象とした事例研究では、酸化ストレス指標がトレーニング状況や怪我などの影響を反映していることが示され、心理状態と併せて評価することにより、選手の詳細なコンディションを把握できることが示された。この結果を応用して、潜在力が異なる選手の酸化ストレス指標を個々に測定することにより、各選手に合わせた適切なトレーニングに繋がられる可能性が示された。さらに、運動選手の疲労回復やリラクゼーションのために用いられる高濃度酸素吸入は酸化ストレスの側面からは特段のデメリットがないことを示し、この方法が選手のコンディショニングに利活用可能であることを明らかにした。以上の結果から、d-ROMs、BAP および BAP/d-ROMs の 3 つの指標は、競技選手のコンディション評価に有用な指標になりうると結論されるときともに、これらの成果が地域の産業や経済に還元できる可能性にまで言及されたことは、博士学位論文として高く評価できる。</p> <p>以上の結果を総合し、本調査委員会は、本論文が博士 (学術) の学位を授与するにふさわしいものと判断した。</p> | | | |